

「名前が書けるようになるまで」の育ちの順序

『 知的障害特別支援学校の先生をしていると、「名前が書けるようになら欲しい。自分の名前くらいは…」という切実な願いをお母さんから受けますよね。さて、今回は「名前が書けるようになるまで」の育ちの順序についてです。

『 「名前が書けるようになって欲しい」という願いを受けて、「よーし！」と一念発起、えんぴつを握らせて先生が手首をガッカリもって、タテ！ヨコ！ナナメ！くるりん！とやっても書けるようにはなりませーん。



- 「ひらがなを書く」ことの分析-

『 分析する角度は幾つかあって、まずは姿勢・視野の安定が必要です。

①詳しくはからだシリーズの「支える」をご参照していただきたいのですが、骨盤の上に背中や首を持ってこられるようにすることや、胸椎まわりの筋肉をつけて、背筋と首を安定させることができます。

②知覚の育ちからは、「子ども（本人）と、大人とが、文字と一緒に見て、『ワタシにとってもアナタにとっても、この「りんご」という文字は同じ意味を表す』」理解をしていくことが必要です。その土台となるのが3項関係というものです。しかし、自閉スペクトラム症のお子さんで感覚の過敏性をもつ場合などは①障害特性としての「人への興味の薄さ」から、「お母さん」や「先生」が抜け落ち「私 - モノ」の二項的になりやすいことや②視覚・聴覚・触覚・嗅覚・嚙嚙・揺れ、加速などの前庭感覚などが、その子の注目をハイジャックして、特定のモノ（例えば水）への没入になったり、特定のモノ（例えば大きな声）への回避になったり、また、それに引っ張られることが原因での無視になったり、感覚過敏に引っ張られての不自然な長期記憶化になってしまふという、三項関係への育ちにくさを抱える場合が有り、この段階で躊躇していることがあります

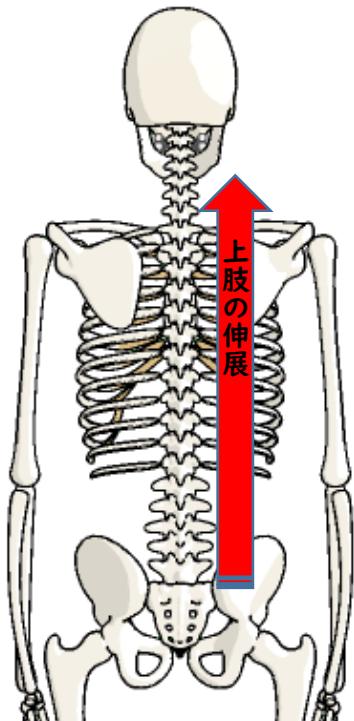
②聴覚が使えるようになります。（妊娠24wで既に聞こえ始め、30wにはパパとママの声を聞き分けるといわれています。）

③視覚が使えるようになります。（これは出生後。）

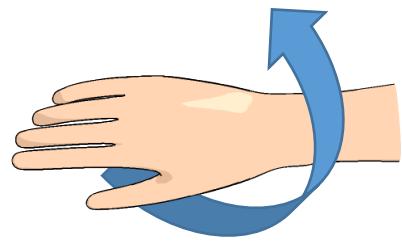
④触覚と目・手の協応（おっぱいに手を伸ばすとか）、聴覚と目・手の協応（ガラガラとかでんでん太鼓の音に反応して顔を向ける・手を伸ばす）、視覚と目・手の協応（メリーに手を伸ばすとか、おもちゃに手を伸ばすとか。）

⑤ ④に伴って、仰向け姿勢→腹ばい姿勢→オットセイみたいに頭が起きる→胸骨裏（胸椎周り）の筋肉の発達→視線の安定→探索行動が増えてくる。

※この胸椎周りの筋肉のトレーニング、首の安定、肩甲骨の可動域の身長などからリトミックの「ずり這い」「四つ這い」「高這い」はとっても大切で、背筋を地面に対して垂直に伸ばせる事につながり、最初は座っていなかった首を支えて、姿勢を安定させることができます。（右図のガイコツ参照）これを「ヘッドコントロール」と言ったりします。



『次に、指の分化→えんぴつの持ち方に関わる指の分化（動的3指と静的2指の分化）や、手首の前後・左右への動き、上腕を上に向けることができるかどうか（回内・回外）など、運動学的な発達の視点や次号で紹介する運筆の運動の方向性からの分析が必要です。



『そして次は、認知面から迫ってみるのですが、「名前を書く」ことの獲得までの順序と支援方法を裏面で追って行きます。

発達の順序① まとまり読みをすることができる。

（「たろう」とか「はなこ」とかを見て、発音できたり自分を指させたりすることができる）

指導方略① ひらがな単語かるたなど（最初はイラストとの対提示でも可。

段々とひらがなを大きく、イラストを小さく（最後には無い状態にする）していく。）



発達の順序② 1文字1文字の音に分解して読むことができる。

（「た」はどれ？「ろ」はどれ？などを例えれば8文字提示の中から選択してその文字を選び取れる等。）

指導方略② 例えれば8文字提示の中から選択してその文字を選び取れる等。



発達の順序③ なぞり書きをすることができる。

（なぞり書きの段階では手の運動性や、どれほどの文字の大きさなら書くことができるのか等を見る）

指導方略③ なぞり書きの下地はUD書体を使うことが望ましいと思われます。



発達の順序④ 模写をすることができる。

指導方略④ 模写の段階もお手本をチラチラ見ながら書くことができる段階と、お手本が書いてある面を見て、ひっくり返すなどして隠して、その後は空で書けるなどのステップアップが望ましいと思います。

（なぞり→模写の段階には、視覚的な把持力（脳の処理過程に形を保持する力）が必要。書字アプリとかも有効。）



発達の順序⑤ 聞こえた文字を空で書くことができる。（音韻→ひらがな書字。）

指導方略⑤ マス目だけの提示で先生とやるのも良いですが、こういう作業はiPadアプリが強いです。



発達の順序⑥ 自分の名前の音韻から文字で名前を書くことができる。（ta, ro, u → 「た」「ろ」「う」→書字）

指導方略⑥ （ta, ro, u → 「た」「ろ」「う」→書字）は枠有り→枠無しのステップアップや縦書き・横書きのステップアップが有り。

